



第4号

京都教育大学教育学部
附属桃山中学校
同窓会
発行人 会長 田原陸夫
京都市伏見区桃山井伊掃部東町16
TEL(075)611-0264-5

振り返る時間と

過ぎ去る時間

校長 横山 一郎

附属桃山中学校で勉学を通じて人類の文化を知り、友人を得ることで、人間を知ることの重要性を会得された卒業生の皆さん、お元気で各方面で活躍のことと思います。

「つゆ草」の愛読者の皆さんの協力と支援で、当附属桃山中学も、今年創立40周年を迎え、六月一日に記念誌を刊行致しました。

この間、一〇、二〇、三〇年誌を読み返す中で、この四〇年の間に、この学舎で青春を謳歌し、常に新しい皮袋を求め、新しい酒を注ぎ、歴史と伝統を支えてこられた一人ひとりの先輩の皆さんの強い思いが伝わってきたことでした。また保護者の皆さん、教職員の皆さん、大学の関係者など、多くの方々のご尽力があつた事も読み取ることができました。この四〇年の間、本学にご支援ご協力を賜りました皆さまに心から感謝とお礼を申し上げます。

私は四〇年誌の巻頭言の中で、私たちの人生には、「振り返る時間」と過ぎ去る時間」の二つの要素がからみ合つて現われることについて書きました。

しかし一方では、象や牛から馬へ、そしてラクダへ変つて行く絵をみて自分達の土地の乾燥化に気づいていたかもしれせん。

学校の歴史もこのように二つの要素のからみ合いからみる必要があると、記念誌は岩壁画に匹敵する意味を担っていると考えたのでした。

四〇周年の四〇の意味が、孔子の云う「四十而不惑」に置きかえられるならば、「自己の学問に對して自信を得、自己の向つていく方向が人間の生活として妥当なものであることを確信するようになった」という解釈を素直に受け入れ、次の五〇周年へ自信と充実の期を自覚し、驕らず、新たな飛躍を自覚したいものです。今後とも同窓会の皆さんのご支援を賜りながら発展を確実なものにするをお願いしつつ、つゆ草愛読者のご多幸をお祈りしております。

このサハラ砂漠にも、昔は象が住んでいて、森や林もあつて川が流れ、そこには人間が住んで生活していたのでしよう。そこに住んだ人々はおそらく自分たちの住んでいるこのサハラ土地は、永遠に緑したたる土地であり続けるだろうと信じていたに違ひありません。

同窓会会長の任を了えて



拝啓 同窓会員の皆様
私 前同窓会長の長村と申します。

前会長 八期生 長村 俊平

会長時代はラッパを吹くだけで、あとは何もせず、副会長、会計、庶務、会報、名簿、渉外の各理事と評議員諸氏に仕事を押しつけて、ゴロゴロしていた怠け者です。

新会長に就任して

新会長 二期生 田原 陸夫



昭和六一年六月二日に開催された同窓会評議員会に於いて、会長に選出され、お引受けすることとなりました。同年八月の同窓会総会に御出席の皆様には、会場にて御挨拶させて頂いておりましたが、「つゆ草」第四号の刊行するにつれ挨拶文を掲載し、このことですので、堅苦しい文章は好みに合いませんが、時期遅れの御挨拶を申し上げます。

永らく休眠状態にあつた同窓会を再開され、昭和五二年八月の都ホテルでの総会開催を実現された浦谷浩平氏(六期)に昭和五四年七月の「つゆ草」創刊と

しかし考えてみますと、中学校単独で名簿と会報(つゆ草)を発行し、数年毎に同窓会総会と親睦会をやっているところは、まあ珍しいものではありませんか。このような事業少々大げさ(一)

が可能なのも同窓会員皆様の「付属桃山中学校」という一体感がエネルギーの源と思われまふ。これら事業を健全に永く継続するには、卒業時に同窓会費として支払った額(最近は千五百円)だけでは、到底、運営できるものではありません。

昭和五六年八月のセンターホテルでの総会を開催された奥川俊一氏(二期)、昭和五八年春の「名簿・つゆ草第三号」、昭和六一年六月の「つゆ草」第三号の刊行と、昭和五八年八月ランドホテル、昭和六一年八月新都ホテルと二度の総会を主催された長村俊平氏(八期)と、それぞれ同窓会の発展、充実を企てられ、且つそれを実現してこられた諸先輩の後に、会長を御引受けすることには少し気が重い点もあります。

しかし、他面、この一〇年間の歩みの中で、当同窓会のあり方、活動の形態もほぼ定着しているだけに、言わば既定の路線窓会を応援してください。

同窓会はクラス会ではありません。またクラス会の寄せ集めであつてはなりません。クラス会のように気安くありませんし、知らない人ばかりの中に放り込まれた感じがしなくてもあります。が、みな付属桃山中学校の同窓生なのです。学び舎や恩師やクラブ活動などを通じて実ほみ知り合いなのです。

同窓会総会のこと、いつも和やかな親睦会が催されます。私は多くの先輩や後輩の方々と同じになりました。これはクラス会ではできません。みな母校を愛しているはずで、みな母校を懐かし想っているはずで、みなあの自由な校風を恋しく想っているはずで、国立であつて国立のようでない、私立のよ

過去にも寄付、広告費、臨時会費などとして無理を承知で納入いただいたこともありましたが、今後ともこのような形で協力の依頼があると思ひますが、特に働き盛り、稼ぎ盛りの諸師、諸兄の皆さまは(〇)で火の車の同

を大過なく終えれば良い、との気楽さもあります。

私の任期中には、既に与えられた課題として、会報の早期刊行(この発行により実現されます)、同窓会名簿の刊行(昭和六二年春発行を目指して作業中です)、があります。その外、財政基盤の確立(臨時会費のお願い、参照)、評議員会の充実、学校との関係の緊密化等幾つかの課題があります。

どうしても片手間仕事になりますために、それらの課題のうちどれだけを任期中に実現できますか自信がありませんが、同窓会を会員諸氏にとつてより身近なものとして感じて頂き、単なる想い出のための集いを超えた会にすべく、評議員・理事の皆様方と共に、楽しく仕事をしたいと思ひますので、よろしく御協力頂きますようお願い致します。

私達はこの母校の卒業生であることに誇りをもっています。これまでがガムシヤラにやってきましたが、今後は敏腕弁護士の田原陸夫君を中心に創意と工夫を凝らした立派な和氣あいの同窓会に発展させてくれることを期待しています。

それでは皆さまもお元気で、また会いましょう。

追伸 恩師、現役の先生方へ、同窓会総会と親睦会は、また盛大に開かれることと思ひます。その折にはどうかこそつてご出席くださるようお願いいたします。昔の生徒も楽しみにしていますから、末尾にて失礼します。

敬具

学校創立40周年記念 同窓会名簿刊行の御案内

同窓会名簿は、昭和58年春に刊行されて以来5年間発行されておられません(前回の名簿には37期迄登載)。その後、同窓生の住所等の移動も多く、また現在の一年生は42期となり、既に5期約600名の方が名簿に登載されています。我々が母校は、本年に創立40周年を迎えることでもあり、その記念の意味をも含めて本年度中には、新たな名簿を刊行する予定で、現在その編集作業中です。各学年の評議員の方々には、その編集につき御理解をお願いしておりますが、会員諸氏もよろしく御協力のほどお願い致します。名簿の発行日程が具体的に決まりましたならば、改めて御案内致します。

重ねての同窓会臨時会費のお願い

会長 田原 陸夫

同窓会の財政基盤の確立のために、「つゆ草」第3号にて臨時会費(一口1,000円)をお願いしましたところ、525名 合計 2,294,100円の御協力を頂き誠にありがとうございました。しかし、前回のお願いにも記しましたように、定時収入は、新入会員の会費(1人1,500円、年間約19万円)に止まるのに対し、郵送費を含めると、会報の発行には約60万円、名簿の発行には約300万円の費用を要します。会員諸氏の中には、前回のお願いの際に、気に留めて頂き乍ら、つい振込みを失念されていた方も多数おられると思ひますが、臨時会費のお願いは続けておりますので、未だ御支払い頂けていない方々は、是非御協力頂きますようお願い致します。

記
一口 1,000円(同封の振替用紙を御利用下さい)。
1~5口程度の間で、幾口でも結構です。

思い出の記

校舎移転追憶の記

一〇期生 文珠 義之

神武景に沸いた昭和三十三年、新学期を前に我々一〇期、一期生は、数年前に建てられたばかりの新しい校舎から、おぼろげに呼んでいた古色蒼然たる雨漏校舎へ引越した。その日、二・三年生約二〇〇人が中庭に整列し、中村校長から現校舎が養護学校に衣替えすること、引越作業は安全に気をつけることなどを聞いた。新・旧校舎間の距離は二〇〇m程度と短けれど、国鉄赤線線や国道二十四号線を横切ることになる。『持ち物で視界が遮られて危いから』という注意を、そこまで持たなくても思いながら聞いていた。最後に校舎に向って皆でお別れに歌を歌った。

この校舎は、高台にあつて明るく、開放的であつたが、教室以外の設備はほとんど何もなかった。体育館のような贅沢なものも勿論なく、雨の日の体育は他の教科に振替えられた。学校の周りは、低い鉄条網で仕切られているだけで、簡単に乗り越えられるのでこれは便利だった。

運動場は雨が降ると泥濘る、乾くと歩いた跡がデコボコになつて残つた。周辺に一本の木もない殺風景な運動場で、小石だけは次から次へと出てくるので体育の授業の前には石拾いをし

た。ただテニスコートだけは不釣合いなほど立派なやつが一面あつて、部員がよく手入れをしていた。正門は、背丈程の門柱が傾きかけて立っていた。校内唯一の大木である樟が正門右手にあつて、昼休みその下でビュウのいんきよ、を遊ぶのが男子生徒の目録になっていた。校舎は二階建本館と、平屋建特別教室の他は、宿直室があるきりだった。宿直室では、ラクテイのおやじが、よくウイスキーをチビチビチビやっていた。学校の北側には畑が広がっていて、コーリユーンブゲンを見て来なかつた生徒は、罰としてこの畑を一周する『三角コース』を走らされた。こんな生活の場とお別れだと、少し感傷的になつて最後の歌を歌つたように憶えている。引越作業が大変だったという記憶は全くない。距離が短いこと、下り坂であること、運ぶ物が机と椅子と図書室の本と理科や体育の教材などあまり多くはなかつたこと、私自身引越作業をサボっていたからかもしれない。机など重いものは、バタバタと呼ぶ自動二輪車に積んで運んだ。積荷の揚げ下ろしをする者は、この車に乗ることができた。志願者が殺到し、バタバ

夕は男子生徒を満載して新旧校舎を往復した。これは男子生徒に大好評であつた。女子生徒は、軽い教材や椅子を運んだ。男子生徒の気配りが足りなかつたのか、ほんまにしんどかつた。と不平不満一杯であつた。現代っ子のフェミニスト中学生なら、バタバタには女子を乗せ、自分達は歩く方にまわるのかもしれない。新校舎は、当時の経済事情から割引いて考えても、消防署のブラックリストに確実に載つてゐると思われほどの老朽校舎であつた。しかし腐つても大卒、京都学芸大学が藤森に移転する前の学舎であり、風格があつた。特に本館は、文化財の指定を受けてもよいような木造二階建の洋風建築で、見事な緑青のふいたバロック風洋式式の屋根が、校舎のシンボルになっていた。正門は五mもあり右を右造りの門柱と、木製格子の頑丈な門扉、左右に通用扉を持つ広い門構であつた。板橋通りに面してからたちの垣根が続き、大和街道沿いは、石塀がめぐらされて正門を入つて左手は官舎、右手は全く使用されなくなつた平屋教室棟。正面には我々の教室となる別館があつた。そして本館以外に二階建教室が二棟、体育館や、図書館、管理入室、便所があり、納戸、物置小屋等があちこちにあつた。何年も使用されていない建物の中はホコリっぽく、掃除が大変だった。教室や廊下は歩いたびにギンギンと鳴り、走れば床に穴があくのではと危険を感じた。壁は触ればポロポロと崩れ落ちたし、雨の日にはあちこちで雨漏りがした。裸電球がつくと、陰気な雰囲気さがさらに恐

い感じになつた。体育館の奥の高い生垣の向側には、学芸大学女子学生のためののっつ草寮があつた。我々は、大奥と呼んでいた。立入つてはいけないという指示は出ていたけれど、大奥探検と称して生垣を潜つて入つて行く者もあつたが、別にトラブルは起きなかつた。校舎は広くなり、必要以上にさまざまな教室は増えたけれども、そのためにお互いの距離ができたように思われた。これまでは、学校中が一つの大家族という感覚であつたものが、校舎移転を機にさまざまな核家族例えれば学年、学級、クラブ仲間友人仲間への分化が始まり、それぞれが距離を置いて接するようになった。見方を変えれば、新校舎は、我々中学生に大人の人間関係を作るための役割を果してくれたようにも思われる。新校舎には、また無駄空間があちこちに散在しており、隠れて何かをするには最高の環境であつた。最近になって、この納戸や物置の隠れ家を最大限に活用していたことをすんだカップルのあつたことを知った。この二人にどうして新校舎は逆に、二人の関係をますます緊密にしてくれ

るものであつた。考えてみれば、混声合唱団員であつた私も、またとない素晴らしいチャンスに恵まれていたということになる。今になって、くそ真面目生徒であつたことを反省し、中学校でし残して来たことがあつたような気持ちになつてゐる。

道程

二期生 宇野 陽美

私たちが二八期生が中学校を巣立つてから十余年が過ぎました。十年一昔とは、あまりに使い回された言葉ではあつますが、この十年は私にとっては夢のような日々で、こうして瞬時立ち止まつて振り返れば確かに過去はある形を持って映し出されはするもの、前を向けばその片鱗さえ残らず、相も変わらず手さぐりで前進するばかりな未来が、漠として眼前に広がるばかりです。十年前、卒業に際して三年一組は音人委員会活躍によって三年間の思い出と西暦二十年の自画像をテーマに留めておきました。今年はその二十年にはまだ十五年ほど足りませんが、特別な事情を酌量していただいてそのテーマを再生し、しばし過去へ立ち帰ることをお許し願えればと思います。「やつてまいりました。一番、上原博英……」テーマの声は昔日の印象そのままに元気に語りかけてはくれますが、当の上原博英氏は一年前、私たちとは住む世界を異にされました。仲間内の男子では誰よりも早く結婚し、みどりちゃんという可愛い娘の父親となり、二十六歳の若さで私たちに一言の挨拶もありません、さつさと別れていくなんて、そんな事が許されていいものでしょうか。いつでも逢える

と慢心して、日々の瑣事にかまけていた私たちに、癒しのような悔根を残していくなんて、人一倍勇気あつた彼には似合わない所業だと思いませんか。「十年には、教師となつて教壇に立つてゐることでしょう。」

と、母の声。「はあ?」「あんた法律事務所に何か用があるの?」「へえっ?」そこで私は、はたとひらめいた。「ああ。これは何かの間違ひにちがいない。」「あら、そやなの?」一体この誰が間違つたのか、ともう一度封筒をひっくり返すと、もう一度封筒をひっくり返すと、「田原?……こここれは、もしや、えーとえーと……?」つゆ草っ。

捨てないで良かった……。手紙の内容は、昨年私の書いた駄文を載せるので、加筆・修正があれば、と言ふものだった。あんなの載せていただくのは、はずかしいので今一度、書きあらためてみようと思ふ。確か中学校について、とか言うんだと……。と、言う訳で色々つらつらと中学校について思い返してみることが、どうも上手くいかない。この一年以上、中学校からさぶさぶ返つて、それでも「我が人生に悔いなし」と天にむかつて叫ぶように。ある日、一通の手紙が届いた。一通の手紙は茶色の封筒で、友達からだつた。もう一通の手紙は白い封筒で、住所が何かが印刷されている。そうか、これはダイレクトメールか。こんなもん、そのままゴミ箱に捨てたらかいっ、と思つてみると、「法律事務所つて書いてあるねえ。」

- ### 新役員
- 会長 二期生 田原 睦夫
 - 副会長 二期生 松井 京子
 - 会計担当 二期生 安田 幸世
 - 名簿担当 二期生 岡本 茂樹
 - 常任理事 二期生 家村 浩和
 - 渉外担当 二期生 上野 浩也
 - 会報担当 二期生 正宜先生
 - 庶務担当 二期生 光春先生
 - 顧問 二期生 水山 光春先生



卒業生近況

京都府議会議員選挙に

立候補して



副会長 八期生 安田 幸世

この私が立候補する。自分自身でも考えてもみなかった事が...

立候補をしてそれに勝利して、皆様にバンザイを云ってもらう事...

あれよくと思う間にみこしにのせられ急な立候補を致しました...

伏見区だけでも一拾七万余の人口があるのです。年賀状ですら...

この人も一票になると思っています。当にそう思える様になりました...

京都新聞に、新人落選再起を期すの記事と写真が載せられた...

たのむと電話をしつづけてくれました。字のかけなかつ方が...

京都教育大学附属桃山中学校 同窓会 評議員名簿

Table with columns for Name, Residence, Telephone, and Roll Number. Lists members of the school alumni association.

新卒生からひと言

「高校」

匿名生

私はまだ「中学を卒業した」という感覚がないまま、高校に通っているかんじです。中学の頃は、はやく高校に行ってみたいなあと、あこがれていました。また卒業の頃はこのままずっと中学生でいたいなあと、思ったりしていました。

授業の雰囲気や学校の雰囲気も、今までとちがうし勉強内容も難しくなっていて忙しくなりました。はじめの頃は余裕もなく、みんなこんな生活ばかりで、私から見た高校生というのは、すく大人っぽくて、私なんか

四十周年記念事業の概要

金子 廉

向暑の候、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。さて、記念事業のほうですが、今のところ済んだもの、これからのものを併せて二つです。一つは、創立四〇周年記念誌の刊行。これは三月二十日から作業を開始して六月一日の創立記念日に完成、作業を終っております。

新校舎の増築、帰国子女教育の十年、研究発表、生徒の生活と気質の現状といったものを編集の軸としております。編集後記に述べましたが、この先、五十年誌までの十年間の変化は、これまでの変化の速さとは比べようもないものになると思われまふ。校歌の詞には、

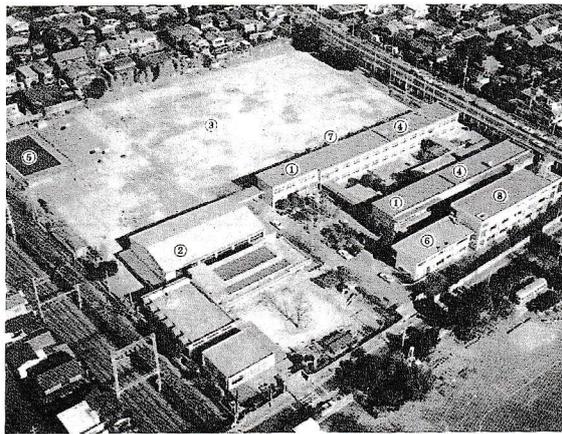
世の福祉を果たすまでとありまふが、これを可能にする条件は何か？と考へてみるのも、各人にとって、この期に相応しい記念事業ではないでしょうか。

かりやつてんのかなあ、ということかんじでした。それに今までと全々ちがってすく自由（＝自分で考へて行動するということだと思ふけど...）なのに驚きました。でも今はその自由がとつてもうれしく思います。これから、もっと学校に慣れて充実した高校生活ができるようにしたいと思ひます。

「中学生生活」

三九期生 植平 祐一

僕にとって、中学生生活は、とてもすばらしかったと思ふ。クラブ、友達、先輩、後



母校近影

間もなく生徒会主催の球技大会が行われまふ。（七月八日。鉢巻、旗の色が決まり、ジワジワ燃えてきております。「旗を集団」について考へる原点をこの辺りに探究するの、各人にとって、この期に相応しいと思われまふ。三つ目は：（エツ／＼二つちごたかか？）これは、わたしの夢であります

総会・懇親会報告

我々同窓会恒例の三年に一度の同窓会総会・懇親会が約百数十名（先生方を含む）の参加で八月二十四日（日）、新ミヤコホテル宴会場にて開催された。なつかしい恩師の先生方をはじめ、先輩後輩・同級生らとのしばらくぶりの再会は、このような総会の時でないとなかなか機会がないもので、昔話に、そして現況報告とのボルテージがテーブルごとく沸騰した。後半には、今回新企画の空くじなしのおたしみ抽選会が行なわれ、すばらしい賞品の数々も、当選者の方々にプレゼントされた。中には、ちゃっかりと

御夫婦で賞品を手中におさめられた方もおられたようだった。三時の閉会ではなかなかごりがつきず、別企画での二次会が、新ミヤコホテルのバーで行なわれ、これも、多くの参加を見てなかなかの盛会であった。しばらくぶりの再会を語り合うには、一日では短かすぎて、またの再会を約束して閉会した。会員総数約四千五百名という数と思えば、ほんのわずかな人の参加だったかもしれないが、今回は若い人達の参加もたくさんあり特に三十期以後の参加人数も多く、新しい力が、我々同窓会にも生まれてきたのだなあとうれしく思つた。

臨時同窓会費納入状況 (S62.6.20現在)

期	会員数	納入者数	金額	期	会員数	納入者数	金額
1	44	2	10,000	19	98	12	37,000
2	90	38	228,000	20	101	12	40,000
3	97	18	115,000	21	100	10	31,000
4	84	31	125,000	22	147	13	41,000
5	96	10	63,000	23	146	17	58,000
6	103	17	108,000	24	149	20	69,000
7	91	15	95,000	25	147	15	44,600
8	97	32	242,000	26	139	8	23,000
9	102	32	148,000	27	145	14	37,000
10	112	20	98,500	28	135	12	29,000
11	101	15	95,000	29	133	16	27,000
12	96	17	83,000	30	123	14	28,000
13	96	18	146,000	31	134	8	13,000
14	101	15	69,000	32	137	6	6,000
15	104	9	42,000	33	133	9	9,000
16	104	8	38,000	34	131	10	15,000
17	95	12	52,000	35	132	16	16,000
18	97	3	13,000	計		525	2,294,100

編集後記

母校の四〇周年を記念して、同窓会の会員名簿を發行する方針を、皆様方にお知らせする目的もあつて、会報の早期發行となりまふ。發行日を七月二日と決めての編集作業で、強行軍は避けられず、関係の皆様方に色々御迷惑をおかけいたしました。前号の際に原稿を頂いていた皆様には、長い間お待ちたせし恐縮です。今回各期評議員の氏名・住所・電話番号を掲載しましたので、住所変更などはこれらの同級生に御連絡下さい。まとめて名簿を發行致します。想、御投稿をお待ちしております。会報担当 二期生 家村浩和

同窓会決算報告書 (自 S58.8.29 至 S61.7.31)

収入の部		支出の部	
前期繰越金	191,445	前回総会支出	1,316,595
利息	12,594	名簿郵送費	26,410
定期預金利息	36,708	印刷費	47,700
前回総会収入	1,448,600	通信費	423,720
名簿収入	494,990	つゆ草印刷費	371,220
S59卒業生入会費	204,000	S59卒業生贈花費	8,000
S60卒業生入会費	199,500	S60卒業生贈花費	10,000
S61卒業生入会費	196,100	S61卒業生贈花費	10,000
計	2,783,937	慶弔費	4,090
		雑費	16,240
		次期繰越金	549,962
		計	2,783,937

二年後には、第五回の同窓会、懇親会が、開催されるであらうが、次回も今回に増しての参加者があることを切に希望する。(二期生 上野浩也)